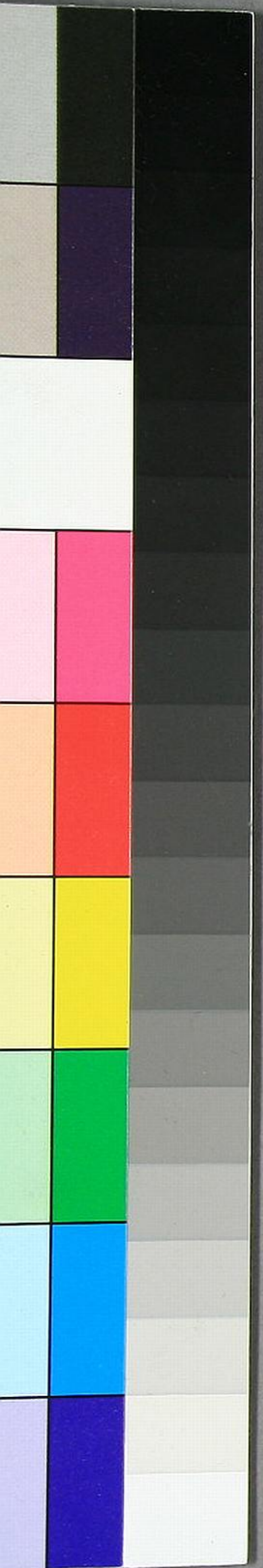


大紙話新文兜袴
初号

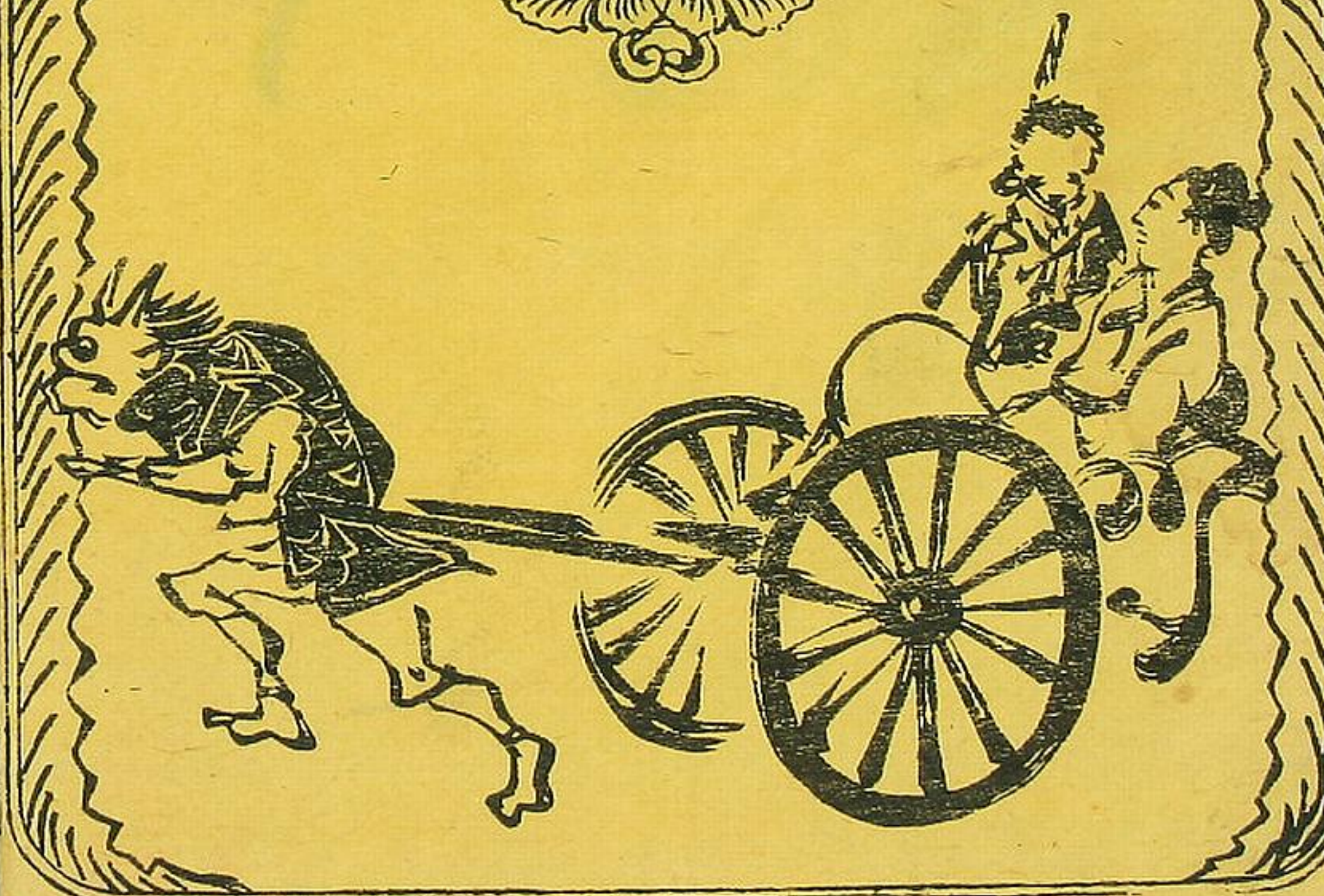


A759
1

万亭應賀作

出るとんた
かひんきんた

惺々曉齋画



大鈍託新文鬼談發端序

吾十八才の年愚者の光音天より智作地本の字獄に墮落
て尻小火のほく催促小絶ふて二十とせ世上を隠戀暮モウ
よーよんがう子と出て見まの忽ち寔て浮沈の立よりの儒書の
直下とありて横文字のよと讀小四海の往來もちう頃の珍説か
時花を見とくふいまで傳信機鏗道の音由香ゆあに冥府に
秘説を穴かーくも新文小鬼談と題して筆を採
無間字獄の自墮落在人

明治五壬申
青陽初開市

万亭智作郎應賀誌

石井

48-7585



賢子
定太郎
父の貸金三千五百兩の
証文を

俄分限
道具屋
定右衛門の
賢子
定太郎
父の貸金三千五百兩の
証文を

賢子定太郎

鐘に張製て
浮地の別荘に
鐘供養と
営む

賢子
定太郎
父の貸金三千五百兩の
証文を

母が子



新淨瑠璃

端唄の
催會

樓屋羅陀母伽



五道の冥官
正月十六日

眞府の
物揚と
名妓の
樓上に
羅屋
母伽
齊摩
どん小



かき
かき
かき
かき
かき

天台の安樂坊
淨地の
道定寺
鐘供養の
導師

かき
かき
かき
かき
かき



かき
かき
かき
かき
かき

道樂寺の
奈落坊も同
鐘供養

かき
かき
かき
かき
かき

うらみ「イヤそいつの大まらび親のおせうくらふうりて
 今と金とを金子が巻ひさうてつのお南地面も地を
 つまどののせるふいさうのあつひかきとた定の渡
 落ふあつひをそれと雲天万星のちび「そいつはしじつ
 こいつはしじつといふ「こいつはしじつといふあつひ
 よくぞんで「おまじつあつひささんさてあの親を定いつと
 彼後うら米様ふ出てよく抹さあげつづつのはまあてを
 めの小屋奥の船市をうけまわつて賣かうり買かうりする
 愛もが年々世の申の混雑ふまはると縁を結ぶ買ふ

その外さんでおむとととめうめつやうやまを車をはけ
 二束と文ふ買とんどあうぶのうらうらふ十両百両ある
 のがいくつの中へ横介の金持とあつて繁花可
 義閉を買うがそのやうなむいこといつのまてもうら
 道具をひひれあうらう買とんど金の刀もまじりか
 ふむさふあつてとこまの及定もあふんとくへ率
 今一交大金を儲んとかけまらうらあつてさうら
 舟はて横渡へる車あつて花やゆきかつてさうら
 せんの様ふうらうらうて春紙し生糸を買ふつてメリメリ

新編五言新集

の日分の金を代借こんで来たる買ととそその洋銀
 此を合せるとあを一たん大福長者あつた今この
 めも物づみり〜とけるがまゝて買と〜りのめつ〜
 じよりあつたお金の上はあつた〜りあつた〜り
 一〜が日分お進するが〜家よだく〜に百両換と
 買と〜お金のと〜ばをさみせ〜その日よりの
 そのお〜の金の上はあつた〜りあつた〜り
 あつた〜りあつた〜りあつた〜りあつた〜り
 御様との御金あつた〜りあつた〜りあつた〜り

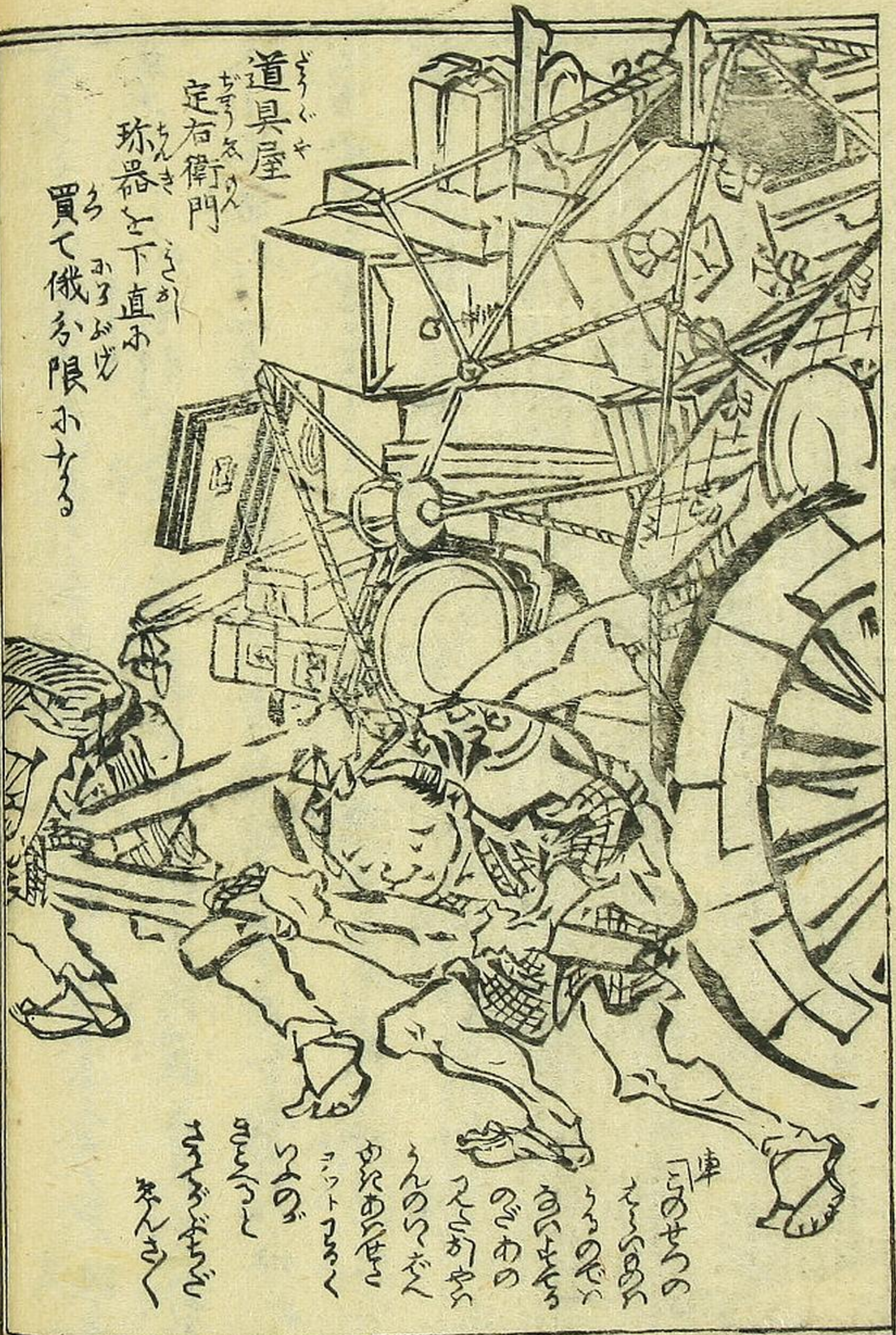
昔〜の金〜その換のむえ〜りあつた〜り
 その換だ〜りあつた〜りあつた〜りあつた〜り
 利益もあつた〜りあつた〜りあつた〜り
 一人をとお酒の切も菓子のおあ〜りあつた〜り
 かつた人をお酒の切も菓子のおあ〜りあつた〜り
 一人は及物や酒樽をとり〜りあつた〜りあつた〜り
 金のお〜りあつた〜りあつた〜りあつた〜り
 一〜りあつた〜りあつた〜りあつた〜り
 一〜りあつた〜りあつた〜りあつた〜り
 一〜りあつた〜りあつた〜りあつた〜り
 一〜りあつた〜りあつた〜りあつた〜り

新文選言新編

四

せんががしやうげんかひのさかむさつものほかに
 ねのがうかむかむかしとせししやうとあつしつ
 せんとはふしつてつてつてつてつてつてつてつて
 ののつらむ馬車や萬葉の車の上りおののつらむ
 むさしつてつてつてつてつてつてつてつてつて
 出舞とせりてつてつてつてつてつてつてつて
 そくおつてつてつてつてつてつてつてつてつて
 一がそのよふつてつてつてつてつてつてつてつて
 まうそつてつてつてつてつてつてつてつてつて

くらむつてつてつてつてつてつてつてつてつて
 りがらむつてつてつてつてつてつてつてつてつて
 入つてつてつてつてつてつてつてつてつてつて
 くるやうつてつてつてつてつてつてつてつてつて
 やるまんごしつてつてつてつてつてつてつてつて
 百支だんごつてつてつてつてつてつてつてつて
 まくよひのつてつてつてつてつてつてつてつて
 さんごつてつてつてつてつてつてつてつてつて
 とつてつてつてつてつてつてつてつてつてつて



道具屋

定右衛門

珠器と下直お

買って俄分限おなる

道具屋
 定右衛門
 珠器と下直お
 買って俄分限おなる



車

道具屋
 定右衛門
 珠器と下直お
 買って俄分限おなる

道具屋
 定右衛門
 珠器と下直お
 買って俄分限おなる

道具屋
 定右衛門
 珠器と下直お
 買って俄分限おなる

あやふそとまはるくあつたごつておとそとゆふのせがきよ
垂しえたるそり前とつうきの年とあやうてそんとして
あまりのう今おとよたりうちらの間があつたといひつ
きんのからとてかまふてつれをそとつてよりかむあ
て言あまはあつてその金とあはせ世のしんまひひその
夜お親父とあつたつとあつて縁をそとすも妻もあつ
うのてまはつてあつたあつてあつてあつてあつてあつ
金とかまふあまひつて一のふんらあつてあつてあつ
あやうとあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつ

あのかち他人ののたううちらのせとあつたありうに
あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつ
べてあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあ
つたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあ
い何んかあつたあつたあつたあつたあつたあつたあ
九二千あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあ
あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあ
あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあ
あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあ
元金の門二束もあつたあつたあつたあつたあつたあつたあ

りけとしくをりしより金があたふに金をかへしむ利は
 けとしくんをかへしむ利はのいさむしよそむ由あれたか
 まがあまをむらうしむりしむらふものをもかへしむ
 と一とて人のおとす金をもひらう利がかへをあたふはす
 びとよまむはむらうのいさむしよそむのいさむらうその
 あつ小由ゆうふくふくすののりせとせうあふのまたあ
 るつた小女房がゆてらんをききとすしむらふのいさむらう
 の田舎の伯父が建てくはすしよそむのいさむらう小娘のむらう
 ろぞのいさむらうはむらうのいさむらうの伯母がむらうのいさむらう

あつものせぬおちやわをを引かしてはる由せぬらひとあつ
 べつつかのいさむらうのいさむらうのいさむらうのいさむらう
 定ちをきくはむらうのいさむらうのいさむらうのいさむらう
 あのかさんのいさむらうのいさむらうのいさむらうのいさむらう
 小家務とあつものいさむらうのいさむらうのいさむらうのいさむらう
 の月切あつものいさむらうのいさむらうのいさむらうのいさむらう
 めが定ちをきくはむらうのいさむらうのいさむらうのいさむらう
 さつりかへはむらうのいさむらうのいさむらうのいさむらう
 一うのいさむらうのいさむらうのいさむらうのいさむらう

上ノ巻ノ目録

俄令限の道定
蚕紙と生糸と
買込て大金銭
拂入

ワッがきちん
そのあいのうの
ふま金とら
すまき
ふまき
あんのう
ゆま

オウの
オウの
オウの
オウの
オウの
オウの
オウの
オウの
オウの
オウの



應賀
新著作
聖人肝漬志
おんせん
おんせん
おんせん
おんせん



オウ
オウ
オウ
オウ
オウ
オウ
オウ
オウ
オウ
オウ

口被
船末左具
名酒
梅介
横山
おんせん
おんせん
おんせん
おんせん

せとぶう人ふざらびゆかきまらぬわうとあひてまをうと千
 一の徳文あてづつさうの徳のつころひゆでさず紙屑小童
 びびにひ百文のやとせあてけあをまうり別荘ふかゆ
 ちきとけ徳文とりて徳を強ぬき又精霊がどのよあふ
 徳供養とせん七七とまませえ本家とひきあてあえ
 つとて月宮川の別荘ふ引後アアアアアアアアアアアアア
 うとくとうとあう本家とボクくとさけが安楽樹意と
 つとてさうとたたづまをりあてあうくた定おやふれ
 なるあともかうくもまへんえとくせりと世の中の人の

足ふらるこゝのあはれもあつたよとあうとて血坊のたあ
 へんてまうとちうとどんでけのそのあはれせとあひる
 せまよそのあはれとあうとあうとあうとあうとあうとあう
 あまどゆとあうとあうとあうとあうとあうとあうとあう
 教化よることあはれとあうとあうとあうとあうとあうとあう
 つとてあはれとあうとあうとあうとあうとあうとあうとあう
 ころあまの金殿玉樓のおうとあうとあうとあうとあうとあう
 まとてあひ今六十よあうのうちあうとあうとあうとあうとあう
 あまの由樹中石上あまのうとあうとあうとあうとあうとあう

新文見言不編

十一

名^なの^なは^はど^どの^の裏^{うら}落^{らく}の^の男^{おとこ}女^めお^おし^しあ^あづ^づて^て生^{なま}佛^{ぶつ}の^の楽^{がく}物^{ぶつ}と^とも^も我^{われ}
 名^なと^との^のま^まじ^じぶ^ぶを^をの^のり^りこ^この^の名^なを^をの^のつ^つて^てま^まじ^じぶ^ぶと^とも^もあ^あを^をの^のめ^め
 山^{さん}流^{りゅう}う^うた^たぐ^ぐ一^一檀^{だん}林^{りん}流^{りゅう}う^うづ^づと^とあ^あへ^へん^ん由^{よし}丸^{まる}の^の一^一つ^つと^とあ^あ
 お^おい^いさ^さん^ん「[」]と^とい^いふ^ふく^く「[」]と^とい^いふ^ふら^らの^のあ^あの^の一^一さ^さや^や「[」]の^の心^{こころ}を^をな^なれ
 が^がよ^よと^と六^むや^や又^{また}さん^{さん}の^の名^なと^とあ^あつ^つれ^れと^とも^もど^どん^んと^とあ^あら^らら
 る^る名^なも^もあ^あぬ^ぬ「[」]と^とい^いく^くお^おあ^あく^く「[」]あ^あら^らま^ま侍^{ざむらい}供^{くわん}者^{しや}の^の身^み作^{しやく}を
 つ^つと^とあ^ある^るの^のあ^あの^のく^く小^こ寺^{てら}末^{まつ}の^の院^{いん}主^{しゆ}と^とも^もあ^あら^らの^の法^{ほふ}師^し
 法^{ほふ}大^{たい}師^しを^をい^いま^まり^りつ^つて^てあ^あら^らま^まと^と衣^えを^を法^{ほふ}師^しを^を法^{ほふ}師^しと^とも^もあ^あら^らる^る
 と^とま^まけ^けが^がり^り「[」]名^なを^をた^たせ^せと^とあ^あら^らる^るの^のあ^あら^らま^まと^とも^もあ^あら^らる^ると^とも^もあ^あら^らる^る

の^の裏^{うら}落^{らく}を^を編^{へん}せん^ん「[」]の^のあ^あら^らま^まと^とも^もあ^あら^らる^るの^のあ^あら^らま^まと^とも^もあ^あら^らる^る
 が^があ^あら^らま^まと^とも^もあ^あら^らる^る「[」]と^とい^いふ^ふく^く「[」]と^とい^いふ^ふら^らの^のあ^あら^らま^まと^とも^もあ^あら^らる^る
 臣^{ぢん}保^ぼあ^あら^らま^まと^とも^もあ^あら^らる^る「[」]と^とい^いふ^ふく^く「[」]と^とい^いふ^ふら^らの^のあ^あら^らま^まと^とも^もあ^あら^らる^る
 う^うと^とあ^あら^らま^まと^とも^もあ^あら^らる^る「[」]と^とい^いふ^ふく^く「[」]と^とい^いふ^ふら^らの^のあ^あら^らま^まと^とも^もあ^あら^らる^る
 本^{ほん}家^けの^のあ^あら^らま^まと^とも^もあ^あら^らる^る「[」]と^とい^いふ^ふく^く「[」]と^とい^いふ^ふら^らの^のあ^あら^らま^まと^とも^もあ^あら^らる^る
 三^{さん}日^{にち}の^のあ^あら^らま^まと^とも^もあ^あら^らる^る「[」]と^とい^いふ^ふく^く「[」]と^とい^いふ^ふら^らの^のあ^あら^らま^まと^とも^もあ^あら^らる^る
 お^おあ^あら^らま^まと^とも^もあ^あら^らる^る「[」]と^とい^いふ^ふく^く「[」]と^とい^いふ^ふら^らの^のあ^あら^らま^まと^とも^もあ^あら^らる^る
 う^うけ^けつ^つの^のあ^あら^らま^まと^とも^もあ^あら^らる^る「[」]と^とい^いふ^ふく^く「[」]と^とい^いふ^ふら^らの^のあ^あら^らま^まと^とも^もあ^あら^らる^る
 つ^つと^とあ^あら^らま^まと^とも^もあ^あら^らる^る「[」]と^とい^いふ^ふく^く「[」]と^とい^いふ^ふら^らの^のあ^あら^らま^まと^とも^もあ^あら^らる^る

新文選言不編

十二

備家ふかひるまとのわんあきと女まへくじをきり
 まうせえのやうあるぢんぢりある女房のあびのやれぎ
 れでこいゆけれゆいゆいゆいゆいゆいゆいゆいゆいゆい
 こらういゆいゆいゆいゆいゆいゆいゆいゆいゆいゆいゆい
 てあゆいゆいゆいゆいゆいゆいゆいゆいゆいゆいゆいゆい
 せのづゆいゆいゆいゆいゆいゆいゆいゆいゆいゆいゆいゆい
 そくせきいゆいゆいゆいゆいゆいゆいゆいゆいゆいゆいゆい
 の目かまきめの家りあつたあまをうせえゆいゆいゆいゆいゆい
 及びうり親かまきめ如來と酒のむゆいゆいゆいゆいゆいゆいゆい

出合そのこいゆいゆいゆいゆいゆいゆいゆいゆいゆいゆいゆい
 むゆいゆいゆいゆいゆいゆいゆいゆいゆいゆいゆいゆいゆい
 ぬ茶湯場がゆいゆいゆいゆいゆいゆいゆいゆいゆいゆいゆい
 づいゆいゆいゆいゆいゆいゆいゆいゆいゆいゆいゆいゆい
 らゆいゆいゆいゆいゆいゆいゆいゆいゆいゆいゆいゆいゆい
 よんでらの本意とゆいゆいゆいゆいゆいゆいゆいゆいゆいゆい
 らゆいゆいゆいゆいゆいゆいゆいゆいゆいゆいゆいゆいゆい
 ちゆいゆいゆいゆいゆいゆいゆいゆいゆいゆいゆいゆいゆい
 ちゆいゆいゆいゆいゆいゆいゆいゆいゆいゆいゆいゆいゆい

舟の便おれとてはるるのしよこおむりすしは傍の格舟
 性中しつひまぬ西方可つて又のほり舟おもむきれ戒名由
 大猷院臨決愚味倍せしあつけあされがらふ船本の物絶業
 かのころの美おんそそへ年たえのふちたれしり
 のつとひのあひまのうらめしうのふちたれしり
 のつとひのあひまのうらめしうのふちたれしり
 のつとひのあひまのうらめしうのふちたれしり
 のつとひのあひまのうらめしうのふちたれしり
 のつとひのあひまのうらめしうのふちたれしり

舟の便おれとてはるるのしよこおむりすしは傍の格舟
 性中しつひまぬ西方可つて又のほり舟おもむきれ戒名由
 大猷院臨決愚味倍せしあつけあされがらふ船本の物絶業
 かのころの美おんそそへ年たえのふちたれしり
 のつとひのあひまのうらめしうのふちたれしり
 のつとひのあひまのうらめしうのふちたれしり
 のつとひのあひまのうらめしうのふちたれしり
 のつとひのあひまのうらめしうのふちたれしり
 のつとひのあひまのうらめしうのふちたれしり
 のつとひのあひまのうらめしうのふちたれしり

十の格舟

上

みらくら坊
地獄の使を

一年のつとめを
平定しおのせふわつ
のつとめを

まろてん
たうら
かろ

おのつとめを
おのつとめを
おのつとめを

おのつとめを
おのつとめを
おのつとめを



おのつとめを
おのつとめを
おのつとめを

おのつとめを
おのつとめを
おのつとめを



Handwritten notes in cursive script, including the boxed title '二編三編ひきつらぬ出版仕' and various annotations.

二編三編ひきつらぬ出版仕

大鑑託新文鬼談初編了

明治五壬申年出版書目録

西洋算獨藝古全一冊書法集解菱湖書法 菱潭集解全四帖

横文字早学問全一冊和漢文章早便利全一冊

横文字源平字盡全一冊大鑑託新文鬼談

校正大日本輿地全圖北海十一ヶ國八一新金錢表全一折

東京書物問屋 山崎屋清七梓

010190522976

